∞∞∞

ニュースレター「がん１１０番」第15号　2006.4.1

NPO法人 がん患者支援ネットワークひろしま

∞∞∞

広島市内でも桜の花が咲き始めましたが、何故か朝晩はまだ肌寒い毎日が続いています。これを「花寒」というのでしょうか？

３月は暖かい日と寒い日が交互にやって来て、体調を崩された方もあったかもしれません。会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。皆様とともに桜の花の下で宴を持てたら良いですね。

ニュースレター第15号をお送りします。今月号も会員からの投稿原稿を掲載させていただきました。その他にも、年度始めのケジメをつけて、渾身の力を振り絞って作成しましたので、ご一読ください。

今年度も患者さんとご家族、そして会の目的に賛同していただき、ボランティア精神でご支援いただいている会員の皆さまにも、少しでもお役に立てればと思います。

●平成17年度第2回総会を開催しました

去る３月25日午後５時30分から、広島市中区地域福祉センターの小会議室で18年度の事業計画案と収支予算案を審議していただき、原案どおり決定されました。

その概要をご紹介させていただきます。

高野事務局長が開会を宣言し、松井理事が会員総数126名、出席者24名、書面表決40名、委任状９名の出席総数73名であることを報告し、総会は有効に成立しました。

まず、私がご挨拶をさせていただきました。その中で17年度を簡単に振り返り、一定の成果が出てきていることをご報告させていただき、18年度事業は、基本的に今年度の方針を維持して、会の活動基盤を固める年にしたい

と決意を述べさせていただきました。

次に、高野事務局長から事業計画案と収支計画案を説明し、すべての議案について、満場一致で承認が得られました（両案については会員の皆さまに送付済）。

総会に引き続き、出席会員の皆様との懇談の時間を取り、会の今後の運営について、忌憚のないご意見を頂戴しました。

また、17 年度の決算を審査していただくため、5 月 27 日（土）に平成 18 年度第 1 回総会を開催する予定です。ご都合がつけば、是非ご出席いただき、皆様と直接お会いしてお話をお聞かせください。

理事長　廣川　裕

●シリーズがん療養生活の基礎知識　AtoZ

在宅医のつぶやき⑮

今回は、「尊厳死」のお話です。

先日、当ネットワークが開催いたしました「市民のためのがん講座」で「再発がんと在宅医療」というテーマで講演をさせていただきました。
その際に「尊厳死」についてご質問がありましたが、その矢先に富山県の病院で「担当医が末期状態の患者さんの人工呼吸器を取り外し、結果として患者さんが死亡された」という出来事がありました。

医療の現場では、法律論のみでは決められないような色々な事情があります。この担当医は、これまでの彼の医療経験や倫理観から適正に判断したと期待しておりますが、この出来事における問題点は「一旦開始した治療を患

者さんの意思が確認できない状況で、彼（医師）一人の判断（ご家族の同意はあったということですが）で治療を中止した」点にあります。

しかし、私はこの出来事を新聞で読んだ時に人工呼吸器を取り外したことよりも「何故、末期状態の患者さん（７名の方のうち５名は末期がんの患者さんだったそうです）に人工呼吸器を装着する必要があったのか」という疑問を持ちました。

延命治療の是非についても、色々と議論のあるところです。
たしかに、患者さんの意思を最優先にして治療を行えばこういった問題は起きないはずですが、患者さんが自らの意思表示をすることが困難な状況にある時に、現場の医療スタッフやご家族はどうしたら良いのか悩むことになります。

講演会でのご質問にもお答えしましたが、「もし皆さんが、延命治療をしないと生き続けられない状況になった際に、どうしたいのか」ということを常日頃から考えて、それを書類に残したりご家族に伝えておいたりすることを、是非実行してみてください。

死は例外なく全ての人に訪れます。決して他人事ではありません。自分の人生を自分らしく生きるためにはどうしたら良いのか、この機会に一度考えてみては如何でしょうか。

理事　田村裕幸

●Dr.津谷の「がん患者の在宅療養は任せんさい」

今回は、津谷副理事長がご多忙のため休載します。

４月１日からの医療保険制度の改正などへの対応のため、誠に申し訳ありませんが、お休みします。次号には復活予定です。

副理事長　津谷隆史

●「がん患者さんのためのＱ＆Ａ」

今回は「痛みの感じ方と緩和治療」です。

「喘息でずっと私（内科医）が診ている患者さんが、がんになって泌尿器科に入院されました。鎮痛剤はもらっているけれども痛みが十分に取れていない様子。見ていて気の毒なので、何とかなりませんか」というお問い合わせを内科の先生からいただきました。

泌尿器科の主治医に様子をお聞きしたところ、主治医も十分に痛みが取れていないと認識していて、患者さんに『痛み止めをもう少し増量しましょう』と提案しているようです。

でもご本人は『以前よりもずっと楽になっているので、もう少しこのまま様子を見たい』と言われたそうです。

ご本人が、主治医に対してこのような発言をされているのであれば、私たちは動けません。患者さんが希望しないのに無理強いするのは、医療の強要になりかねないからです。

痛みはないに越したことはありませんが、それはこちら側の一方的な思いのこともあります。
「強い痛みは嫌だけど、時々痛みが出る方が、病気に向かって襟を正すことができるので良い」と言われた方もいらっしゃいます。

患者さんが疼痛緩和治療の追加を断った時、その患者さんが、「これ以上は痛みをとりたくない」と思っているのか、それとも「薬に対する偏見などで鎮痛剤などを使いたくない」と感じているのか、ご家族や医療関係者は、そのあたりをはっきりさせる必要がありますね。

理事　藤本真弓

●会員からの投稿

今回も、会員である H.T.さんから、ご寄稿をいただきましたので、ご紹介させていただきます。

再び夢を描いて生きて行けます

昨年 4 月、私は総合病院で内視鏡による咽頭癌の手術をしました。
咳は手術前よりは軽くなったものの相変らずなのが気になって、主治医である耳鼻科の先生に話しましたら、10 月に PET-CT 検査を受けるように言われました。

右肺に 1 cm 位の白い影があるので、12 月にもう一度 CT 検査をすると良いでしょうと言われました。12 月 21 日 CT 検査をしました。
同月 28 日耳鼻科の先生の紹介で、検査資料を持って同じ病院の呼吸器外科で受診しました。
先生は「6 月の検査では、左肺に白い影があったのが 10 月には薄くなっている。しかし新しく右肺に 1 cm 位の影がある。これは体の脇を 3 ヶ所切って組織検査をしてみないと判断がつかない」と言われました。
体を 3 ヶ所も切ると言われて恐ろしくなり、切らずにすむ方法はないものかと混乱する頭の中で考えました。が、結局 2 月 1 日に手術をすることになりました。

実は 3 ヶ月前に海外旅行の予約をしており、20 日後には出発することになっているので、途方に暮れてしまったのです。
手遅れになって死にたくはないが、二度と行けなくなる体になってしまうかも知れないと思うと、やはり行こうと決めました。
年が明けて 1 月 5 日、耳鼻科の先生に 2 月 1 日に手術日が決まったと報告しました。
私はまだ、何とかして切らずにすむ方法はないものかと迷っていましたので、先生にセカンドオピニオンをしてみたい旨を話しました。そして、他の病院を紹介してほしいとお願いしました。
先生はすぐ呼吸器外科に電話をして専門医のいる病院を調べて下さって、

紹介状と検査資料を貸し出して下さいました。
　出発迄の残り 12 日間に望みを託して、できる限り努力してみようと思いました。

　私は咽頭癌の手術後、友人の紹介で「NPO 法人がん患者支援ネットワークひろしま」の会員になりました。理事長の広川裕先生に資料を持って一度診断して頂きたいと思い、たかの橋中央病院のセカンドオピニオン外来の予約を申し込みましたが満員でした。

　やっと、出発 3 日前の 1 月 14 日に予約ができました。1 月 10 日、耳鼻科の先生の紹介状と資料を持って、総合病院の呼吸器外科の部長先生に会いに行きました。

　先生は方法が 2 つあると言われました。
　まず脇を 3 ヶ所切って組織を取り出して検査をする。
　結果が出たらすぐに、
（1）　原発性癌の場合は、脇から背中まで切開して右肺の２／３を切除し同時にリンパも切除する。その後、抗癌剤治療をする。
（2）　転移癌の場合は、何もせずにそのまま閉じる。

　手術をしますかと聞かれてもどうして良いか解らないまま、お願いしますと言いました。
　先生は「資料はこのまま預かっておきます。1 月 31 日に CT 検査をして、その日に手術日と手術の方法を決めましょう」と言われました。
　資料が戻らないので仕方なく、その日せっかく取れた広川先生の予約を取り消してしまいました。

　(1) と (2) のどちらに決っても、これで私の人生は終ったと思いました。やる気を失くしてからの 3 日間のことは、今でも思い出せません。

　13 日夜、ふと思い立ち高野事務局長に電話でこれ迄の事情を話しました。
　すると「自分の命に関る事なのにどうして簡単に諦めてしまうのですか？まだチャンスは残っているではありませんか。幸い明日は広川先生の診察日

でしょう、とにかく行ってがんばってみなさい」と言われました。

翌朝資料を取りに行くと、察しのついた看護師さんが「手術は無理にここでしなくても良いのですよ」と言われたのでほっとしました。「先生にどうぞよろしくお伝え下さい」と伝言をお願いしてきました。

あの日、私は予約を待っている人達のことを思って、早々とキャンセルしてしまったことを後悔しながら、祈る思いで受け付けに行きました。
すると係の女性が「あらやっぱり来たのね。貴女の電話を聞いた時に何故か予感がしたので消さずに残しておいたのよ。」と言われました。
一瞬、耳を疑い聞き返しました。体が震えて涙が吹き出し、私は手を合わせ何度もお礼を言いました。

信じられない幸運に恵まれて、心に余裕が出来た私は広川先生の説明を聞いている間に決心しました。
「先生の診断に、私はどんな事にも従います」と言いました。旅行にはどうしても行きたいと思っていること、出発迄にあと 2 日しか残っていないことを話しました。
先生は「では間に合わせてあげましょう」と言われ、翌日 PET-CT 検査をして下さいました。

結果は、右肺の一個だけで他への転移は無いことが確認されました。
この時、初めて命が助かったと思いました。
その上、幸運なことに、残る 1 日が、広川先生が紹介して下さった呼吸器外科の先生の診察日であったのも不思議です。

紹介して下さったのは、奇しくも最初の病院でした。
私は元の病院へ帰って来たのでした。それからは恐れていた手術に、正面から向き合うことができて、先生の話を冷静に聞くことができました。
旅行から帰り次第入院すると決まり、翌朝インドへ出発しました。

インドでは夜明け前、真っ暗な道を牛のフンを踏んづけない様に、懐中電灯を頼りにガンジス河へ歩いて行きました。

夜が白々と明け始めると、いつの間にか人々が集っていて、河のすぐ側で一斉に煙が立ち上っているのです。
丸木を組んで積み上げた上には、木の担架に乗せられた遺体がインド独特の濃い色彩の布に包まれて北向きに安置されていて、数ヶ所で火葬されています。
ごうごうと音を立てる炎はまん中の腹部を隠して、頭と長い足は炎からはみ出しています。遺体を焼くのは家族の男性の役割だそうで、時々バケツで河の水を遺体にかけ乍ら、良く焼ける様に炎の強い腹の部分を棒で力一杯たたいています。

私は、皆に置いて行かれるのも忘れて、その場に釘づけになっていました。火葬されている人達の人生を想い、自分のこの先の運命を想いながら見つめていました。
ボートで2時間観光している間も炎は絶えることなく続いて、私は手を合わせて見つめていました。今日はいつもより多いのだと現地人のガイドが言っていましたが、それも何か意味深く思えてなりませんでした。

岸に上がると、男達は遺灰をバケツで何度もガンジス河に流していました。丁寧に土を引っ掻く様に集めては河に流していました。この人達は恵まれた方々であり、薪が買えない人は、そのままガンジス河に流すのだそうです。

ガンジス河に消えて行くインドの人達の潔い生き方に、私は敬意を抱き、感動しました。インドでは色々と学び、反省することができました。無理してまで来てよかったと思いました。
帰国して2日目に入院し、2月7日に手術をしました。
昔、肉親が手術後の激痛に苦しむ姿を見てトラウマになった私は、手術を極端に恐れていました。が、私は激痛に苦しむことも無く、治療を受けることができました。
病名が判るまで3週間待ちました。その間は最悪の結果ばかり想像して落ち込んでいました。先生にあれこれ神経質に質問をして、同室の人達はあきれていました。
今思うと、先生はさぞお困りになったことでしょう。それなのにいつも暖かく受け止めて下さって感謝しています。

病名は「肺悪性リンパ腫」でした。
進行の遅い癌で、手術で95パーセント完治するそうです。
助かったのが信じられなくて茫然としました。うれしくて、地に伏し、天を仰ぎ、叫びたい程でした。数日後、退院することができました。

そして今、毎日がとても大切に思えてなりません。
以前は当り前の様に見えていた周りの風景が新鮮で美しく写り、人や物にもやさしく接するようになれた気がします。
ここに至るまでには、多くの方達との幸運な出合いがありました。そのおかげで私は危機一髪で救われました。

これはきっと神様が、私をまだこの世に生かせておく意義を私に問いかけておられるのでしょう。たとえ病気が再発しても、信頼する先生方が最良の治療をして下さると信じています。

私を救って下さった多くの皆様に、深く感謝いたします。おかげ様で私は再び夢を描いて生きて行けます。
皆様、ほんとうに有難うございました。

会員　H. T.

●事務局長の独り言

○ 年会費の納入について

当会が設立されてこの４月で丸２年が経ち、ＮＰＯとして認証を受けて１年半になりました。
１８年度の年会費を納入していただく時期になりました。今月半ば、総会開催のご案内を差し上げた際に、「郵便振替用紙」を同封いたしました。未納の方は、早めの手続きをよろしくお願いいたします。
なお、ご不審な方は事務局（TEL：082-289-0610）までご連絡ください。

事務局長　高野 亨

●広島県内のがん関係イベント情報
****

○のぞみの会・広島【第52回例会】「入浴・美術館ツアー in 蒲刈」
日時：2006年4月9日（日）
集合時間：午前8時50分
集合場所：広島駅新幹線北口広場
目的地：呉市蒲刈町、上蒲刈町、県民の浜
参加費：4,000円
バスルート：　8:00　廿日市市さくらピア発　8:20　五日市駅前
　　9:40　呉合同庁舎前
　＊広島駅以外での乗車希望者はご連絡ください。
　（のぞみの会・広島　0848－24－2413　浜中皮膚科クリニック内）

○生と死を考える会・広島【第37回定例会】
日時：2006年4月9日（日）午後2時～4時
場所：幟町カトリック教会1階ホール（広島市中区幟町）
内容：セミナー「キュプラー・ロスが教えるもの」
講師：近藤信（イエズス会神父）
連絡先：幟町カトリック教会（TEL：082－221－0621）

○びわの葉の会　第15回例会
日時：2006年4月23日（日）午後1時30分～3時30分
場所：中区地域福祉センター5階（大手町平和ビル）
テーマ：「がん難民」ゼロにしよう
発表者：癌とともに生きる会会長　石原健太郎
参加費：1,000円　（受付は当日15分前まで）
申込み：松田（090－3370－3209）

○生と死を考える会・広島　座談会
日時：2006年4月29日（祝）午後2時～4時
場所：広島市西区民文化センター3階和室（広島市西区ＪＲ横川駅前）
内容：「自死について」

○第37回緩和ケアを考える会・広島【定例研究会】
日時：2006年5月20日（土）午後2時～4時30分
場所：広島国際会議場　ダリア（広島市中区中島町）
テーマ：「緩和ケアにおける臨床心理士の働き」
講師：藤土圭三（広島文教女子大学教授）

○平成18年度第1回「市民のためのがん講座（全6回シリーズ）」
日時：2006年5月27日（土）午後2時～4時15分
場所：中区地域福祉センター　5階大会議室
テーマ：「最新の乳がん治療の話題」檜垣健二（広島市民病院）
「乳がんの検査法」廣川裕（当会理事長）
受講料：通年受講（お得です）当会会員　4,500円、
協力団体会員　6,000円、一般　7,500円
選択受講（1回）当会会員　800円、協力団体会員 1,300円
一般　1,300円
問合先：当会事務局（TEL: 082-289-0610、 E-mail: info@gan110.rgn.jp）

○がん電話相談「がん１１０番」
日時：2006年6月4日（日）午前10時～午後2時
電話（携帯）：090-6419-4535　090-6432-7424
連絡先：事務局（TEL 082-289-0610　E-mail：info@gan110.rgn.jp）

○第10回日本緩和医療学会総会
日時：2006年6月23日（金）～6月24日（土）
場所：神戸国際展示場（神戸市中央区港島中町6－11－1）
テーマ：「緩和医療におけるケアの本質」
内容：
特定講演「東洋におけるケアの本質」南裕子（国際看護師協会）
会長講演「ケアのパワー」内布敦子（兵庫県立大学）
シンポジウム「家族をめぐるケア」ほか
教育講演、ワークショップ、指定演題、パネルディスカッションなど
連絡先：078-925-0878（FAX）兵庫県立大学看護学部治療看護学

●編集後記

ニュースレター第15号はいかがでしたでしょうか。
今回は、自分にとっても、ひとつの区切りと考え、頑張って編集してみましたが、如何でしたでしょうか？

またまた今回も、会員からの投稿をいただき、本当に嬉しく思いました。
いろいろな体験や苦しみを乗り越えてこられた感動的な文章でした。ありがとうございます。

いよいよ平成18年度が始まりました。総会で18年度事業計画と収支予算が決まりました。是非、各事業への皆様の積極的なボランティア参加をお願いします。会員とともに事業を作り上げ運営して参りたいと考えております。

また、しつこいとお叱りを受けそうですが、当会の運営をより良くするため、会員の皆様からのご意見、ご質問等を募集しております。是非、下記のTEL&FAX番号、又は電子メールまでお気軽にお寄せください。

今後とも、当会へのご支援とご協力を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

（浩）

■発行者： NPO法人 がん患者支援ネットワークひろしま 事務局
URL： http://www.gan110.rgn.jp
■連絡先： E-mail： info@gan110.rgn.jp
TEL：082-289-0610　FAX：082-289-0569
■Copyright： NPO法人 がん患者支援ネットワークひろしま
このニュースレターは、当会の会員に毎月配付しております。
当会の活動を充実させるため、入会希望者のご紹介をお願いします。